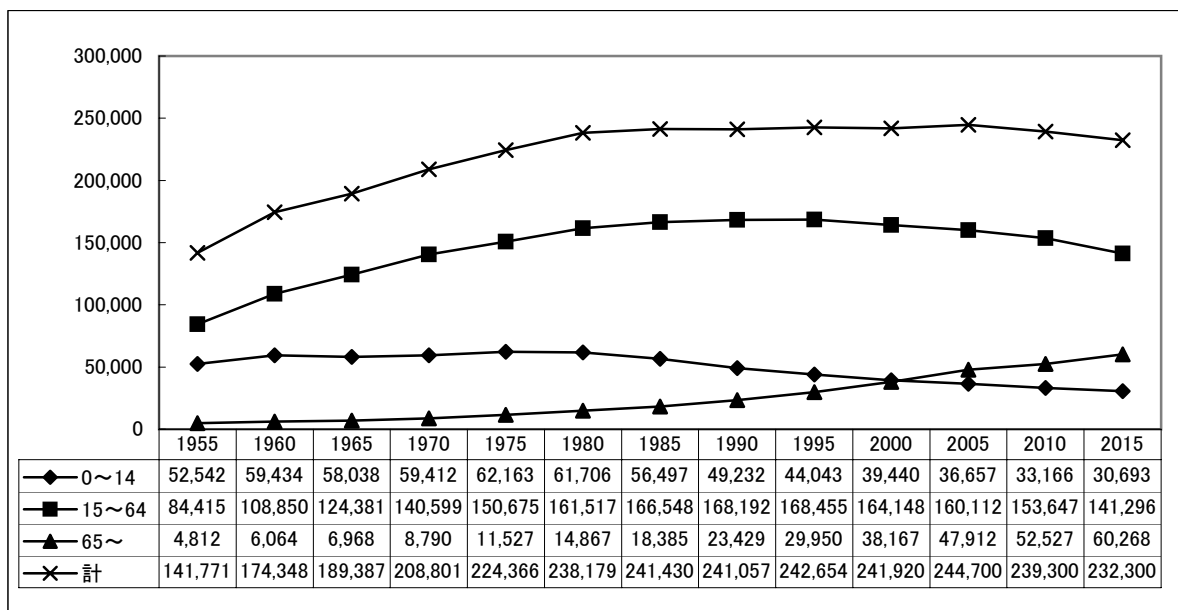


## (1) 八戸市の人口推計

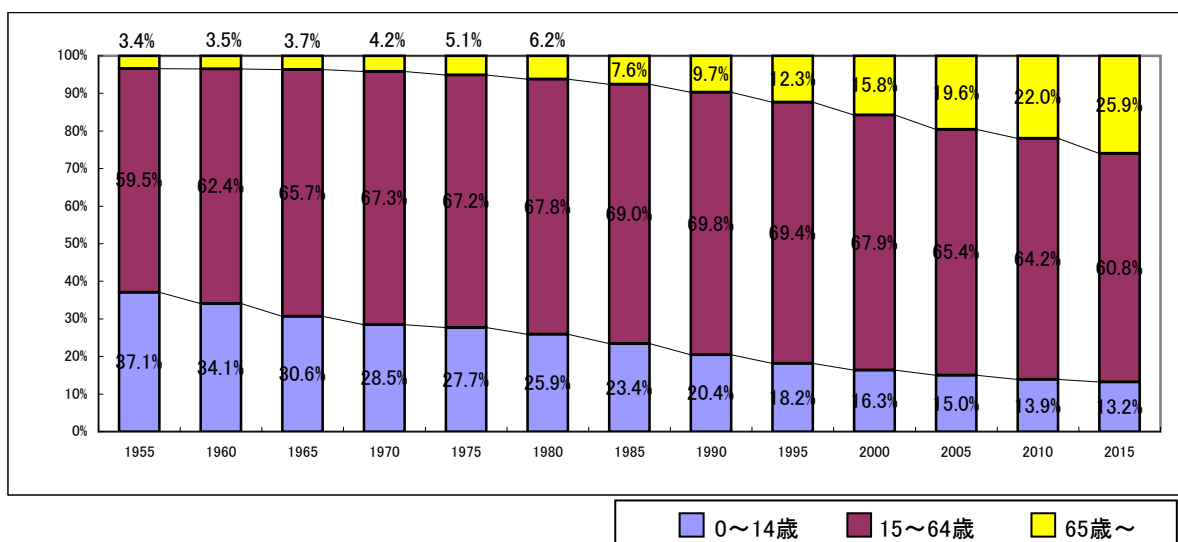
当市の人口は、1985年（昭和60年）の国勢調査で24万人を超え、その後は横ばいの状態が続きました。2005年（平成17年）には現在の南郷区との合併により244,700人となりましたが、その後は減少傾向にあり、今後もその傾向は続くものと見込まれます。

また、年齢区分別の推移を見ると、0～14歳の年少人口は1975年（昭和50年）以降、一貫して減少を続けています。また、65歳以上の老年人口は一貫して増加傾向にあり、近年はその傾向が強まっています。その結果、2000年（平成12年）から2005年（平成17年）の間で年少人口と老年人口の数が逆転し、少子・高齢化の傾向が顕著になってきています。

### 総人口の推移



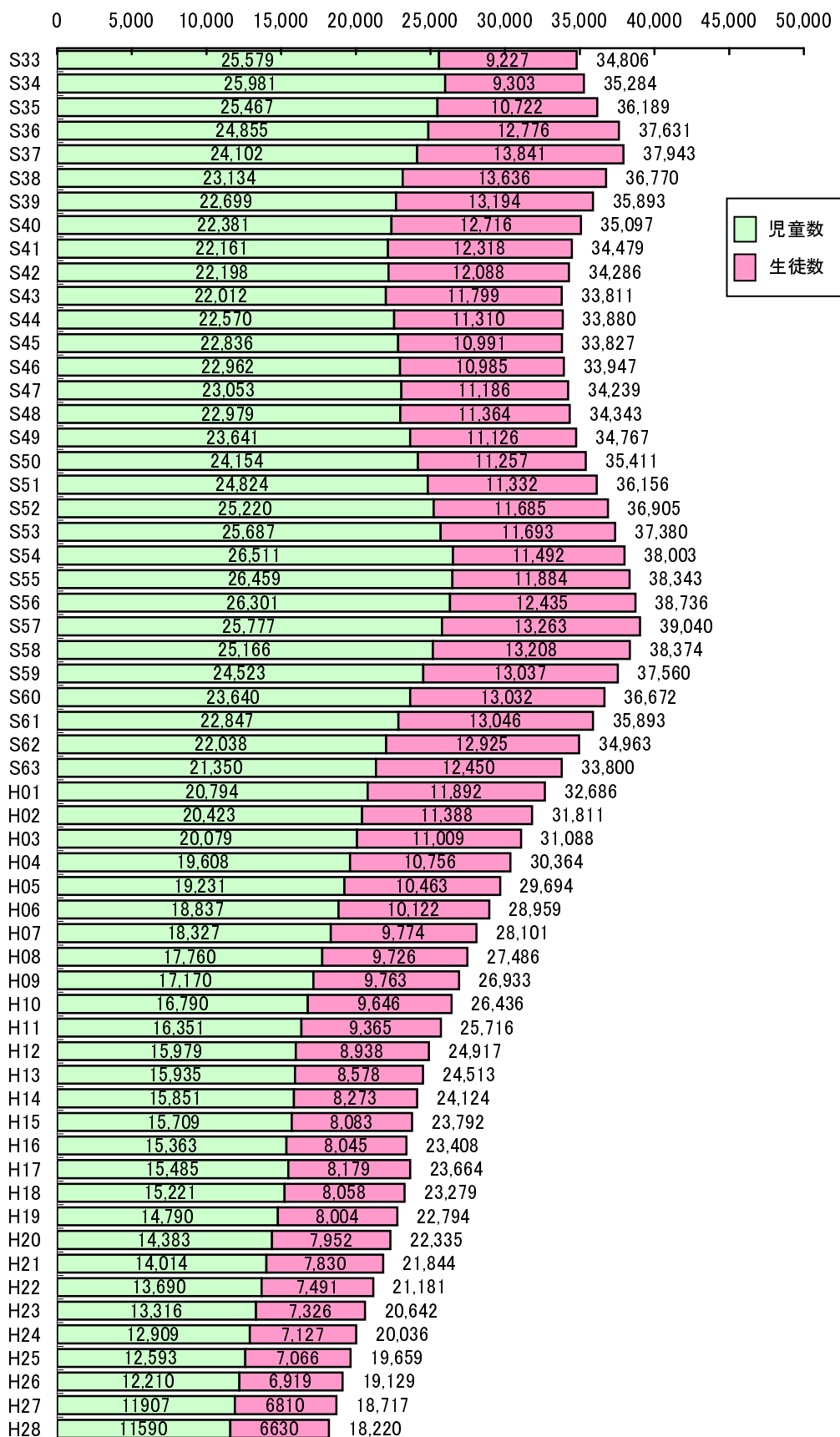
### 年齢3区分人口比率の推移



※2000年（平成12年）以前は、南郷区を含みません。

※2010年（平成22年）以降は、第5次八戸市総合計画の人口推計を参考にしています。

(2) 市立小・中学校の児童生徒数の推移

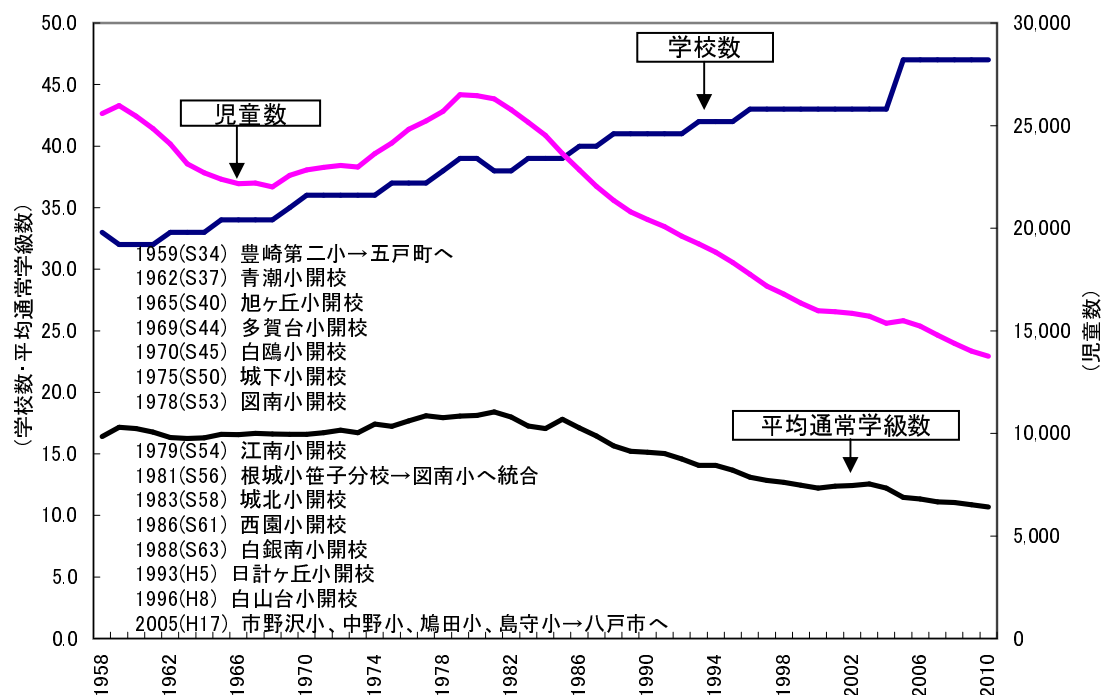


※児童生徒数には、私立、組合立の学校を含みません。 ※2004年(平成16年)以前は南郷区を含みません。

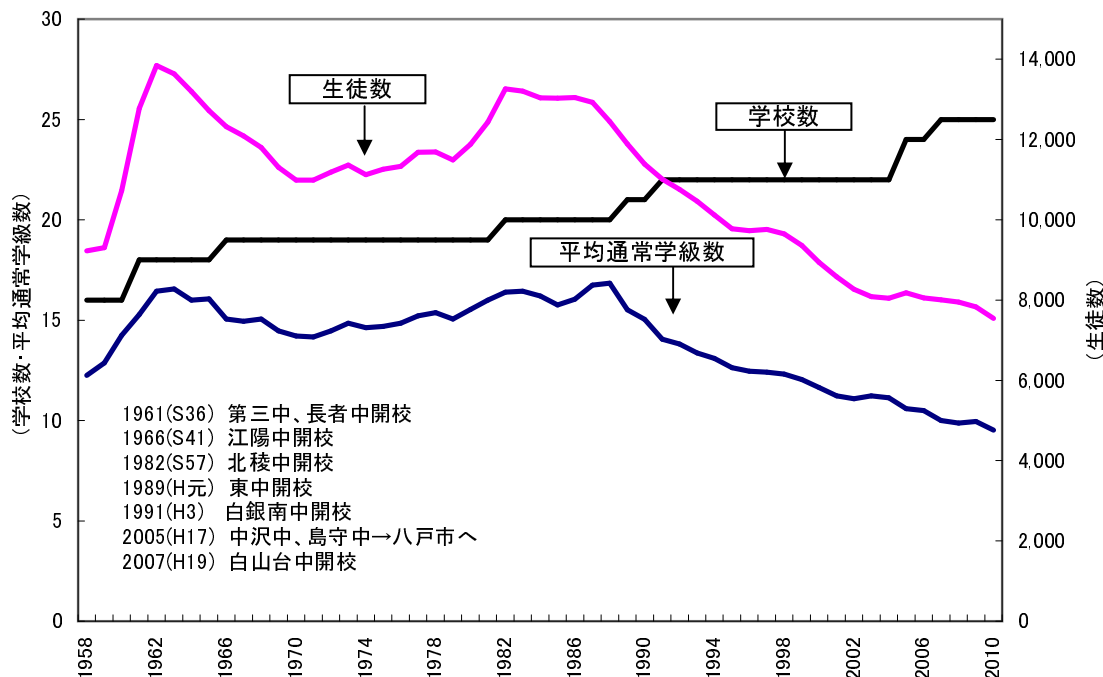
### (3) 児童生徒数と学校数の推移

市立の小・中学校ともに、児童生徒数は減少傾向にあるのに対し、学校数はほぼ一貫して増加傾向にあります。

#### 児童数と小学校数の推移



#### 生徒数と中学校数の推移



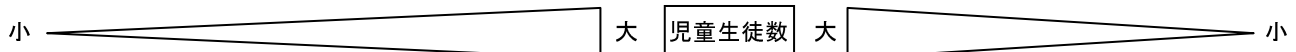
(4) 平成22年度の小・中学校の学級数

平成22年5月1日現在の通常学級数を見ると、小学校では白山台小学校の26学級、中学校では下長中学校の19学級が最大となっています。

また、通常学級数における中位数（学級数を大きさの順に並べたときに中央にくる学級数）は、小学校が11学級、中学校が10学級となっており、複式学級を持つ学校は、小学校7校、中学校1校となっています。

小学校										通常学級	中学校											
										白山台 854	26											
											25											
											24											
											23											
											22											
										新井田 662	青潮 697	21										
											吹上 647	20										
										柏崎 544	城北 625	19	下長中 642									
										根岸 543	白銀南 583	18										
											17											
										小中野 479	16	第一中 521	根城中 514									
										旭ヶ丘 462	根城 503	15	東中 481									
										鯨 440	白鷗 451	14										
										中居林 345	13	湊中 448	白山台中 402									
湊 317	江陽 317	桔梗野 320	八戸 320	白銀 330	長者 351	下長 360	12	大館中 429	白銀中 408	市川中 386												
										西園 274	田面木 286	城下 298	11	北稜中 365	第二中 348							
										函南 248	是川 249	高館 266	10	白銀南中 348	長者中 324	三条中 309						
											三條 252	町畑 281	9	鯨中 306	第三中 295	小中野中 274						
											明治 211	8										
											7											
種差 62	大久喜 67	島守 70	轟木 83	豊崎 90	市野沢 121	日計ヶ丘 143	江南 144	多賀 145	多賀台 163	6	江陽中 161											
											5	是川中 132										
											4	明治中 104										
										松館 13	金浜 13	中野 15	鳩田 24	3	中沢中 111	南浜中 68	豊崎中 61	島守中 46				
											番屋 3	是川東 9	美保野 10	2	美保野中 8							
											1											

※児童生徒数には、特別支援学級の児童生徒も含む



### (5) 小学校と中学校の接続

小学校と中学校の接続については、指定校として、青潮小学校が湊中学校と東中学校に、白鷗小学校が白銀中学校と白銀南中学校に、種差小学校が鮫中学校と南浜中学校に、田面木小学校が根城中学校と白山台中学校にそれぞれ分かれて進学しています。

中学校	生徒数	小学校	児童数	中学校	生徒数	小学校	児童数
第一中	521	吹上小	647	根城中	514	根城小	503
		中居林小	352			江南小	144
						田面木小	286
第二中	348	八戸小	320	白山台中	402	白山台小	854
		城下小	298				
第三中	295	柏崎小	544	下長中	642	下長小	360
						城北小	625
						高館小	266
長者中	324	長者小	351	北稜中	365	根岸小	543
		凶南小	248			日計ヶ丘小	143
		番屋小	3				
小中野中	274	小中野小	479	是川中	132	是川小	249
						是川東小	9
江陽中	161	江陽小	317	三条中	309	三条小	252
						西園小	274
湊中	448	湊小	317	明治中	104	明治小	211
		青潮小	697				
東中	481	旭ヶ丘小	462	市川中	386	桔梗野小	320
		町畑小	281			轟木小	83
						多賀小	145
白銀中	408	白銀小	330			多賀台小	163
		白鷗小	451	豊崎中	61	豊崎小	90
白銀南中	348	白銀南小	583				
美保野中	8	美保野小	10	大館中	429	新井田小	662
						松館小	13
鮫中	306	鮫小	440	中沢中	111	市野沢小	121
		種差小	62			中野小	15
						鳩田小	24
南浜中	68	大久喜小	67	島守中	46	島守小	70
		金浜小	13				

(6) 学校規模によるメリット・デメリット (例)

※八戸市の例ではありません

学校の適正配置に関して都道府県・市町村が作成している計画等を参考に文部科学省において作成  
中央教育審議会 初等中等教育分科会 小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会 (第8回) 配付資料より

	小規模化		大規模化	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
【学習面】	○児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○1 学年 1 学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。	○集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。	○全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
	○学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	○運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ○中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ○児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。	○運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ○中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ○児童・生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。	○学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
		○部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。	○様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。	
【生活面】	○児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○異学年間の縦の交流が生まれやすい。	○クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ○集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ○切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。	○クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ○切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。	○学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。
	○児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。	○学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。	○全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
【学校運営面・財政面】	○全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ○学校が一体となって活動しやすい。	○教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ○学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ○一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ○教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。	○教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ○学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ○校務分掌を組織的に行きやすい。 ○出張、研修等に参加しやすい。	○教職員相互の連絡調整が図りづらい。
	○施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	○子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。	○子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい。	○特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。
【その他】	○保護者や地域社会との連携が図りやすい。	○PTA 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。	○PTA 活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。	○保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。